

第一朗読：イザヤの預言（イザヤ 53・10-11）；彼は自らを償いの献げ物とした。彼は、子孫が末永く続くのを見る  
答唱詩編（詩編 33・4+5、14+15、20+21）；神の注がれる目は、神をおそれる者に、神の愛に希望をおく者の上に。  
第二朗読：ヘブライ人への手紙（ヘブライ 4・14-16）；大胆に恵みの座に近づこう  
アレルヤ唱：（マルコ 10・45）；人の子が来たのは仕えるため、多くの人のあがないとして自分のいのちを与えるため。  
福音朗読：マルコによる福音（マルコ 10・35-45）；人の子は、多くの人の身代金として自分の命を献げるために来た

今日の福音はイエスはわたしたちキリスト者がどうあるべきかを示してるものです。国の指導者あるいは権力者や有力者が支配したがることをイエスは指摘し、わたしたちはそうであってはならないということを教えています。わたしたちは皆に仕える者であるということを求めておられるのです。すべての人の僕になりなさいとも言われます。今の世の中であって、それは難しいことかもしれません。現代は平等という名のもとに上昇志向をあおり、競争に勝った者が得をし、負けた者を支配する社会だからです。しかし教会は今までであったような政治形態をも取り入れることのないように注意しなければなりません。教会は封建制的なものでもなければ君主制的なものでもなく、かといって民主制的なものでもないのです。現代の民主主義も、結局は権力欲を消滅させるものではないのです。信徒が積極的に働くための民主化は必要ですが、それが誰かを支配するための権力となってはなりません。いつも「皆に仕える者」「すべての人の僕」となるということを常に考えて行動することがキリスト信者には求められているのです。

仕えるということは自分を消してしまうことでもなく、また何もしないことでもなく、あるいは責任を回避することでもありません。仕える者は活動する者となるのです。イエスご自身が仕える者となりました。その頂点が十字架の死です。ヤコブとヨハネが権力を得たいと思ったり、他の十人がそのことで腹を立てたりといった弟子たちの誤った考えや生き方から、イエスは自らの死によって彼らを解放しました。わたしたちが歩む十字架の道とは苦しみを意味するのではなく、すべての人に仕えることなのです。自分が仕える相手をえり好みしてはならないし、仕えることを実現するために新しい階級制度を作ってはならない。たとえば、人より抜きんでるための手法として他人に仕えるのにあまりにも積極的であったり、最もよく仕えている人をほめたたえるようなことになってはならないのです。ただすべての人に仕えること、これがイエスが教えてくださったことなのです。それこそがイエスと交わり、イエスに従う道であるのです。

12人をイエスは呼び寄せて言います。世の権力者の生き方とイエスが示す生き方の違いを伝えます。前者は権力をふるい人々を支配する生き方が偉大さの基準とみなされています。しかし、イエスは「あなたがたの間では、そうではない」ということばを挟んで後者のイエスに従う道を示します。「あなたがたの中で偉くなりたい者は、皆に仕える者になり、いちばん上になりたい者は、すべてのしもべになりなさい。」本来なら避けて通りたい生き方と感ずるかもしれません。上昇志向で生きていく生き方の方がいいと感ずるかもしれません。しかし、イエスが示されたのは真の弟子になるための道です。細く狭い道かもしれませんが、皆に仕えること、すべてのしもべになることを求めています。福音書に描かれている弟子たちというのは、まだ心もとない弱い姿で描かれています。それはわたしたちの姿でもあります。弟子たちはつまずきながらもイエスに従うことをやめようとはしません。イエスの死後、復活のイエスと出会うことで弟子たちは大きく変わり、大胆にイエスを宣教し始めます。わたしたちがイエスに従う歩みの中で、そこに示された弟子たちの姿もわたしたち自身の姿なのだということです。仕えられるためではなく仕えるために来られたキリストに従って歩いていくことができるよう祈りをささげましょう。

また、今日は世界宣教の日の祈りと献金にあたっています。日本だけではなく全世界のカトリック教会で記念される日です。イエスが弟子たちに伝えたのは「全世界に行ってすべての人に福音をのべ伝えなさい」ということです。この命令によってまず弟子たちは当時行くことのできる限りの全世界に行きキリストをのべ伝えました。現在わたしたちがキリスト信者であるのは弟子たちに続く宣教師たちが苦難を乗り越えてどうしても多くの人に福音を伝えたいと思って行動した結果であるのです。『聖書と典礼』7ページにコラムを寄稿している東京教区のアンドレア司教もミラノ会の宣教師として日本に派遣された方です。日本は布教が進まず、いまだに宣教国で多くの援助をいただいています。世界を見ると、カトリックの信者はおよそ13億7500万人（2021年）いますが、全世界の人口の17%程度ですから、まだまだキリストの福音を告げ知らせる必要があるのです。わたしたちも少しでも周りの人にキリストをのべ伝えることができるよう神の恵みを願いましょう。